



● 巻頭言…………… P2	● 職場紹介…………… P8	● インフォメーション…………… P 9
● 東日本大震災救援報告 …… P3	● 新任医師紹介…………… P8	● 読者のコーナー…………… P 9
● トピックス…………… P6	● 人事だより…………… P8	● 外来診療担当医表…………… P10
	● 地域の先生ご紹介…………… P8	● 編集後記…………… P10

救護班 第1班

福島県会津若松市 河東体育館 救護所にて 2011.3.27 撮影



ここのらの地名

舞鶴赤十字病院編 その21
舞鶴市文化財保護委員
舞鶴地方史研究会会長
加藤 晃 様

青葉山 [あおばさん]

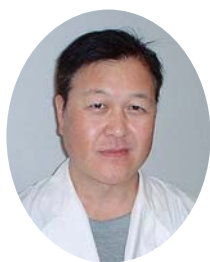
字天台にある天台寺の東にそびえる山です。西国二九番札所松尾寺のある山も、同じく「あおばさん」といいます。ただし、松尾寺の山号は「せいようざん」です。樹木がさかんに茂るおめでたい地名です。あんがい険しい山で、山伏の修業場所でした。

大江山 [おおえやま]

むかし丹波の大江山、鬼退治伝説の山です。福知山市大江町にありますが、元は京都市と丹波の境にある大枝山だと言われています。大柄な山一横に広がった山容を大柄な山と言いました。丹後の大江山832mも横に広がっていて、どこが頂上か、よく分かりません。

弥仙山 [みせんさん]

標高664m、綾部市於与岐から登ります。舞鶴からは少し折れ曲がったような山容が見えます。戦前まで女人禁制で、女性は水分神社までしか登れず、遥拝所から拝んだそうです。修験者が奈良県吉野の弥山にならって付けた山名でしょう。



副院長
加藤 宣誠
かとう すみとも

巻頭

言

Lead Speech



Lead Speech

大学病院勤務時代の思い出

5月に高野山に出かけました。奥の院では多くの歴史的人物の墓碑や供養塔を参拝できます。織田信長、豊臣秀吉、石田光成などの墓を見学しながら道を進むと伊達政宗の墓にも遭遇しました。お墓そのものがあまりにも立派で周囲も荘厳なため、そこに伊達政宗が眠っていたとしてもまったく違和感がないのですが、伊達政宗の墓は仙台の瑞鳳殿にあるはずなので、おそらく供養塔なのだろうと考えながら奥の院御廟をめざしました。伊達政宗といえば処世訓として「伊達政宗の五常訓」が有名です。

仁に過ぎれば弱くなる
義に過ぎれば固くなる
礼に過ぎれば^{へつら}諂いとなる
智に過ぎれば嘘をつく
信に過ぎれば損をする

この言葉の根底には、「仁義礼智信」があり、儒教の基本的な五つの徳目を「五常」と言うのだそうです。思いやりの心を持ち、恩義・義理・慈悲の心を忘れず、礼節を重んじ、考え学ぶ力を養い、人を信じる気持ちを忘れず、約束を守ればよいということかもしれません。何事も中庸が大事であることを説いているとも言われています。東北地方全体にこの五常訓の精神が受け継がれ定着しているかもしれませんが、その内容をみると仙台での大学病院時代に教授から受けた薫陶を思い起こさせます。

私が入局した第一外科医局には当時、佐藤寿雄教授というそれは厳格な先生が居られました。手術時、手持ちの開創器をもつのですが何時間もすると握力が落ちどうしても位置がずれやすくなります。そのとき持っている開創器が少しでも動くときと烈火のごとく叱られたのを思い出します。一方では医局員に対し非常に思いやり、やさしさがあふれる教育的な指導も行われていました。「第一外科の根底をなすものは重厚、着実な気風である。日頃の地味な勉強の積み重ねが成果になるものであり、日々の鍛錬を怠ってはいけぬ。人間の欠点だけを見てはいけぬ、その人の良い点を伸ばしてあげるのだ。下のものは先輩を敬い、上のものは後輩を指導する。時間・約束は必ず守る。」などなど指導されたことは枚挙にいとまがありません。

一例を挙げれば、当時病棟では入院患者さまに対し講師の先生と若い医師二人で主治医となっていました。そのとき若い医師が不十分だと、講師の先生が指導を怠ったことで教授に叱られます。先輩が後輩を指導することは当然のこととして長きにわたり伝統として受け継がれているからです。また、時間を守るということでも厳しい先生でした。症例検討会は午後1時0分0秒きっかりに教授以下全員が整列し開始されます。教授回診の開始時間も同様で毎回朝8時0分0秒に始まり、前後することは決してありませんでした。

医療を取り巻く社会環境、医療の高度化・専門化、患者さまの意識の変化などにより医師が行う診療そのものは昔とは異なっています。時代が違ふよと言う人がいるかもしれませんが入局してきた人間に対して教授であることの責任として、けじめをしっかりとし、規律をきちんと守る人間を育て上げ、輩出したかったのだと思います。

今回の東日本大震災は甚大な被害をもたらしましたが、その象徴的な建物としてテレビに度々出てくる南三陸の志津川病院があります。この病院には昭和60年ごろ、大学から約2ヶ月間出張しており私にとっては大変思い出深い病院です。当時、病院長・外科部長も同じ外科医局出身であり関連病院として成り立っていました。病院の前の道路を隔ててすぐの湾内では貸しボートから釣り糸を垂らすといとも簡単にカレイが何匹も釣れました。今回の震災・津波にて、患者さまのみならず職員も命を落としたとのことでありますが、崩壊した病院の姿に私の記憶に残っている当時一緒に仕事をした人々の顔が重なり合い、いたたまれない気持ちになります。

今回の震災は死者は1万人以上、家族らから届け出があった行方不明者は1万5千人以上で史上まれに見る地震・津波被害といわれております。まさに、想定外、想像以上などの言葉では表現しきれないことが起きているのだと思います。政府主導のもとに、医療界においては各学会・病院・医師会などを含めさまざまな組織が連携をとりあって今回の震災を乗り越えていくべきでしょう。

我慢強く、思いやりの心豊かな人々が住む東北地方が一日も早く復興することを願い、自分としては赤十字職員として、また同門会・同窓会などを通じてできる限りの支援を行っていきたくと考えています。



【特集】

東日本大震災救援報告

東日本大震災と舞鶴赤十字病院～福島県の災害救護活動に参加して～

4階病棟係長 井上 優子



私は3月24日から28日まで、福島県会津若松市にある避難所での診療活動に参加してきました。避難所では、200名～350名ほどの方々がおられ、津波の被害というよりも福島原発の影響で避難を強いられている方々が中心でした。寒い体育館生活で体調を崩しなかなか治らない状態であったり、継続する薬がなくなってしまう、不安で診察に来られた方もおられました。

あるお婆さんは、「何十年ともう故郷には入れないのかもしれない…」と話され、学童期の女子は、「勉強したい」と泣いて訴え、高校を卒業したばかりの青年の就職先が、今回の避難の原因となった原発であることなど、お話を聞かたびに心が震えた日々でした。

自分たちに何ができたのか…？と自問する胸中でありましたが、赤十字病院の力を借りて、被災地の支援活動をする機会を頂けたことに感謝しています。あの方々は今どんな生活をしているのだろうか…と、テレビのニュースを見るたびに思い出します。東日本の復興が早く進んでいくことを願わずにはいられません。



東日本大震災での救護活動 理学療法士 佐々木 修一



平成23年4月14日から18日までの5日間、福島県会津若松市で救護活動に参加してきました。病院では理学療法士として勤務していますが、救護班では自動車操作要員、主事として活動をしてきました。救護班の活動内容としては、会津地域内の避難所となっている体育館や旅館などを巡回し、診療にあたるというもので、私の主な仕事は救急車の運転と診療所での受付業務でした。その中で、医師の指示のもと介護指導や運動指導、杖の処方など専門分野であるリハビリに関することも少しですが行うことが出来ました。私の力は微々たるものでしたが、関わった方々からお礼の言葉を頂き、笑顔がみられたことが何よりも嬉しく、少しでもお役に立てて良かったと感じました。

救護班の活動は精神的に大変なことも多かったですが、チームの皆さんに助けをもらいながら無事に活動を終え戻ってくることが出来ました。今回の貴重な経験を生かして日々の業務に取り組みたいと思います。



石巻赤十字病院 事務支援を終えて 庶務課主事 坂根 徹

4月23日から30日にかけて、石巻赤十字病院内に設置された石巻圏合同救護チーム本部の事務作業を支援してきました。

基本的に病院内での仕事でしたが一度被災した市街地を見る機会がありました。大量の瓦礫やひっくり返った車など、あまりに現実離れした光景に映画のセットを見ているような感覚でした。このような被災地が岩手から福島にかけて広がっているかと思うと、復興にはどのくらいの時間がかかるのか見当もつきません。

今回は実際に避難所での診療に携わったわけではないので被災者の方の役に立てたかどうか実感は湧きにくいのですが、救護服を着て作業をしていると自分も赤十字職員だという誇りを感じました。

貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

自治医科大学同窓会、東日本大震災支援プロジェクトに参加して

副院長 片山 義敬



自治医科大学同窓会では震災直後よりボランティアとしての医師を募集し、支援活動をおこなってきました。支援地域は釜石地区と登米・南三陸地区で、今回第8陣として、5月5日から14日まで活動に参加してきました。

メンバーは医師4名・臨床心理士4名で、それぞれ2名ずつが、釜石と南三陸に分かれ、私は登米・南三陸地区を担当しました。

南三陸町では、地元の医療スタッフによる医療への復旧を目指し、その週末で各医療チームによる救護所は閉鎖し、巡回診療も終了しました。本部の仕事やベイサイドアリーナの救護所の当直、最後の入谷小学校の巡回診療などに従事し、次からは、患者さまは志津川病院仮設診療所と鎌田医院仮設診療所の2か所に巡回バスを利用して受診します。住民や看護師さんからは救護所や巡回診療終了への不安も聞きましたが、地元の医療を立ち直らせるためには必ず通る道であること、初めは診療所で長く待つなど混乱もあるだろうが、同窓会医師も引き続き支援しスムーズに移行できるよう取り組んでいること等を話し理解をお願いしました。また、臨床心理士は、第1陣であったので、現地の心のケアに対するニーズ、被害状況の評価を行いました。

登米市の医療機関の診療支援。登米市津山診療所(5日間診療)は患者数1日16～24名で、津山の住民と南三陸からの避難者が半々でした。津山若者総合体育館(毎日巡回)では、被災者の健康状況・感染症の発生などについて看護師または担当者から報告を聞きました。避難者は150名前後で仮設住宅への入居などで毎日数人減っていました。また、津山診療所を受診されている患者の情報も還元しました。米谷病院の当直は水曜日に入りました。

5月14日に宇都宮で報告会を行い、第8陣の活動報告をし、今後の支援の方向についてコーディネーターとして議論しました。参加した医師・臨床心理士が自治医科大学同窓会の支援理念に基づき、同じ気持ちで働けたことは貴重な体験でした。この支援の輪が細くとも長く続くよう期待しています。



支援業務の内容

- 薬剤部内の調剤業務支援…入院調剤・外来調剤・注射払い出しを行いました。
- 避難所への薬の配達・服薬指導・薬剤管理…受診困難な避難者に薬を配達し、薬の説明・お薬手帳の配布を行いました。また、避難所の医薬品管理、衛生管理等を行いました。
- 支援物資(医薬品)の在庫整理…国内・海外から届いた医薬品を整理し、院内で使用できるもの、使用できないものに分け、使用できる医薬品は優先的に使用していきました。



外回り(避難所)業務のミーティングの様子



避難所での持参薬チェックの様子



避難所への薬の配達の様子



調剤室の様子

今回の震災では慢性期の患者さまが多く、前回処方を知るためにもお薬手帳持参の必要性を強く感じました。当院薬剤部では今後お薬手帳の普及をさらに進めていき、お薬手帳を常に携帯できるようなシステムを検討していきたいと考えております。患者さまには出来る限り、お薬手帳を携帯していただくようお願いいたします。

小学生への災害救護学習報告(平成23年6月27日)

手術室兼中央材料室 師長 塩尻 桃枝

福島県会津若松へ災害救護に行った経験から、舞鶴市立余内小学校4・5・6年生(226名)に、赤十字の使命である「災害救護活動」を学んでいただく機会をいただきました。

赤十字の「人道」は「人の体とところの痛みをとりぬくこと」であり、その理念で救護活動したことを伝えました。活動の様子がわかるようにスライドを用いて紹介しましたが、写真に写ることのない「こころ」の痛みについても説明しました。

最後に、被災された方の頑張りと辛さを「認める」ことの大切さを伝えました。人は認められると、自信を持つことができ、笑顔にもなれます。そして、前に進むことができます。

今回、小学生の皆さんに「自分に何ができるのか」を考えていただきました。児童会から、被災地の方々に暑い夏を乗り切っていただきたいという考えから、メッセージつき団扇を贈る事が提案されました。メッセージには「相手の頑張りと辛さを認める」内容を書かれるそうです。お話ししたことが児童に伝わり、行動していただけることをうれしく思いました。このような機会をあたえていただいたことに感謝しています。



石巻赤十字病院薬剤師支援活動報告

薬剤師 岡田 智行

今回の石巻赤十字病院への薬剤師支援活動には、当院からは以下の4名が参加いたしました。[]内は他参加病院。



第8班

増田 伸洋
(4月19日～24日)

武蔵野、大田原(栃木)、諏訪、浜松、名古屋第一、名古屋第二、山田(三重)、長浜(滋賀)、大阪の各赤十字病院



第10班

坂根 章彦
(4月29日～5月4日)

北見(北海道)、長岡(新潟)、前橋、静岡、岡山、徳島、熊本の各赤十字病院



第11班

岡田 智行
(5月4日～9日)

前橋、名古屋第一、福井、京都第一、京都第二、高松、岡山、広島各赤十字病院



第12班

三田 直樹
(5月9日～14日)

浦河(北海道)、諏訪、横浜、前橋、名古屋第二、山田(三重)、高槻、京都第二、広島、大分の各赤十字病院

舞鶴赤十字病院の人の話を聞いて

舞鶴赤十字病院の人の話を聞いて、ぼくは、避難所に避難している人の心と体の痛みを取り除いていくのが、赤十字の活動だと分かりました。

初めは、ぼくの所じゃなくてよかったと思っていたけれど、この話を聞いて、ぼくに何かできることはないのかな、と思うようになりました。だから、本部が考えて提案してくれた「うちわプロジェクト」に協力していきたいし、節電・節水をして、思いを行動に表していきたいです。

また、活動を楽しむことは、大切だということもわかりました。被災地で、みんなと協力をし、診察したり、心の相談をしていた赤十字病院の人たちは、とてもすごいと思いました。就職が決まっていたのに取り消しになったり、修了式ができなくて困っている子がいることもわかりました。だから、赤十字の人が話されていたように、人に関心を持つことはいいことだと思いました。そして、困っている人がいたら、声をかけてあげたいと思いました。

何をしても、人と力を合わせて協力していきたいと思いました。

舞鶴市立余内小学校 6年 油江穂高

野球指導者向け講習会

理学療法係長 水嶋 祐史
みずしま ゆうじ



日本では野球は子供から大人まで競技人口が幅広く、メディアでの露出度からも国技と言っても過言ではない競技です。

しかし、同時に投球障害肩・肘に悩む選手も非常に多いスポーツでもあり、骨や筋肉が成熟した大人や体調を徹底的に管理されたプロ野球の選手ですら故障してしまうのです。

成長期の子供は運動神経や感覚は発達が早く、小学生高学年には大人と同じくらいに発達していますが、骨や筋肉は未熟です。骨の成長は骨軟骨と言われる関節の周囲で起こり、弱い部分でもあります。その弱い部分に筋肉がついているので、骨成長が完了する前に、オーバークースや無理な筋力トレーニングによって筋肉が早くに発達すると、弱い骨軟骨に強い力が加わってしまい、結果として骨軟骨が壊れてしまいます。また、筋肉は疲労の蓄積や急な成長で硬くなりますから、そのような状態で競技をすることはパフォーマンスも十分に発揮できませんし、故障の原因になります。常に身体をいいコンディションに整えておく必要があります。

最近では投球障害で病院に来られる選手が増えてきていますが、ほとんどの選手が痛みがひどくなり、重症化して受診されるケースが多いです。投球障害の痛みは投球時のみ出現し、日常生活では気付くにくく、「筋肉の張り」と勘違いしてしまうことが多いです。

肩・肘の投球障害を予防するためには、選手の身体の状態の変化に一番気づかれる現場の指導者の方に投球障害や、成長期の身体のことをもっと知っていただくことが最大の予防策と考え、野球指導者の方々にに対して講習会を定期的で開催しています。この講習会では①投球障害、成長期の身体を知ってもらい怪我・故障の予防に役立ててもらふこと、②故障が重症化する前に、専門医の診察を受けるという意識付けをすること、③現場の指導者同士、また指導者と治療者のネットワークを作ることを主な目的としています。万が一、故障に気づいても早期であれば早めの競技復帰が可能になり、選手の心のストレスも少なくすみます。

時間はかかるかもしれませんが、舞鶴市内の野球チームの指導者の方々、選手達に障害予防・早期発見の意識が浸透し、少しでも怪我・故障で野球をあきらめる選手が減ればと考えています。

講習会は当院のホームページにて案内をしております。

【ホームページアドレス <http://maizuru.jrc.co.jp/index.htm>】

市民講座

医療社会事業課 藤本 芳枝
ふじもと よしえ

6月4日(土)午後2時より舞鶴グランドホテルで市民講座を開催しました。

今回は公立八鹿病院の神経内科部長の近藤清彦先生をお招きし、「いのちを支える医療と音楽」と題して音楽療法について講演をしていただきました。

患者さまのベッドサイドで音楽を通して思いを伝えたり、生きる意欲を与えたりと、音楽が与える精神的な効果は計り知れないものがあることが講演から感じ取ることができました。終末期のお母さんと告知をしていないため曖昧な言葉でしか表現できなかった娘さんが、音楽療法で親子のところが通じあえた事例をお話していただいたときには、目に涙があふれてしまいました。

参加していただいた皆様が最後まで熱心に先生のお話を聴きいっておられたことも印象的でした。



毎月 糖尿病教室やってま～す!!

6月15日、参加者18名で和気あいあいの雰囲気の中、糖尿病教室が行われました。今回の内容は「自分の血糖値を知ろう」を課題に実際の血糖測定と食事体験をして頂きました。

内容は、①空腹時血糖値測定→②講義:「自分の血糖値を知ろう」→③食後血糖値測定→④運動:リズム体操とウォーキング実施→⑤運動後の血糖値測定でした。

20分の運動でしたが、血糖値が「すごく下がった～」「少し下がった～」「あまり下がらなかった～」と様々な声が飛び交っていました。

みなさんも是非、参加してみませんか?お待ちしております。毎月、内容が変わります。詳細は「平成23年度糖尿病教室予定表」(P9)をご覧ください。



プール前の救急法の講習会をおこなって

病棟師長 里見 紀久子
さとみ きくこ



平成23年6月18日(土)15時から、プール前の救急法講習を明倫小学校で行いました。明倫小学校の教職員の皆さま、PTAの方など45名の方が参加され、参加者全員が積極的に心肺蘇生法を練習することができました。

前年度より参加人数も増え、特にPTAの会長さんから「事故防止」についての強い思いもお聴きし、救急法だけでなく、「安全教育」も含め指導にあたりました。

心肺蘇生法をするための人形は全部で三体持参しました。指導は私1名で行いましたが、先日少年消防クラブ(BFC)の活動で救急法に参加した小学6年生の息子が、救急法にも関心があったので荷物もち兼準備要員として参加してくれました。デモンストレーションでは、AEDを持参する役割もしてくれました。短時間ではありましたが、会場の熱気で私だけでなく参加者も汗をかきながら積極的に取り組まれ、嬉しく思いました。見ていだけでは実際には出来ないことが多いのですが、全員が人形に触れ施術をすることができましたことは良かったと思います。

私は、赤十字幼児安全法講習において、人を救うのに「年齢は関係ない!」「できることをする!」それが大切であるということばかりでなく、それと同時に心肺蘇生法をせずともすむように、日頃から意識し子供達の健康状態に気を配ることや、子供達自身が事故予防できるような安全教育に力を注ぎ、危険リスクを少なくすることに努力することが大切であることも伝達しています。

今後もこのような地域活動にはできるだけ参加し子供たちの事故防止に協力していきたいと思います。

七夕ふれあいレクリエーション

7月5日午後1時30分より、当病院2階会議室において「第26回七夕まつり患者ふれあいレクリエーション」が開催されました。舞鶴市社会福祉協議会のご協力のもと日赤ボランティア会の方々が中心となって、踊り有り、体操有り、歌有りの楽しい時間を患者さまに過ごしていただきました。



職場紹介 こんにちは 4階病棟 です!



● 文 病棟係長 吉岡 恵美
よしおか えみ

4階病棟は、内科・眼科・整形外科(亜急性を含む)を対象とした混合病棟です。

専門性のある技術を用いて安全で安心できる医療・看護を心がけ、スタッフみんなで協力し合い、よい看護が提供できることを目標にしています。そして、日々良く見えるようになったと喜ばれる眼科患者さまに癒されながら、患者さまの緩和ケアにも力を入れています。

スタッフ全員でフィッシュを取り入れた明るい元気な病棟作りに取り組んでいますので、気兼ねなくお気軽に声をかけて下さい。

私たちを見かけたら
声をかけてくださいね!



新任医師紹介 はじめまして!

お気軽に
ご相談
ください



小児科



医師 近藤 秀仁
こんどう ひでひと

5月から小児科で勤務させていただいております近藤と申します。京都第一赤十字病院から来ました。勤務をはじめ2ヵ月になりますが、舞鶴の子供達は礼儀正しく素直で感心しています。

短い間ですが、子供達が笑顔で元気になるように頑張りますので、よろしくお願いいたします。

地域の先生ご紹介

vol. 15

このコーナーは、臨床検討会「心種会」に参加されている開業医の先生を五十音順にご紹介するコーナーです。(心種会: 当院医師と開業医の先生とで開催する臨床検討会の名称です。)



第15回 藤井 正樹 先生をご紹介します。

ふじい まさき

藤井内科医院

〒624-0841
舞鶴市引土67-1
電話 (0773) 75-0021
診療科: 内科 放射線科



日常診療において心掛けているのは、当たり前のことを当たり前にすることです。診療の場のみならず、何かにつけて重要な事と思っております。満足して頂ける診療を行う為にも、ミスや事故を防ぐ為にも最も重要な事で、絶えず努力して行くべき目標と考えております。

また、患者さまの訴え・お話をしっかり聴かせて頂き、丁寧な診療を心掛ける事で、微力ながら地域医療に貢献させて頂きたいと願っております。

人事だより Personnel Changes

【退職】

調理師 新宮 良子 平成23年6月30日 付
臨時看護師 上田 美帆 平成23年6月10日 付

【採用】

臨時看護師 澤田 美佐子 平成23年6月 2日 付
臨時看護師 村上 祐摩 平成23年6月 2日 付
臨時看護師 米田 佳世 平成23年7月 1日 付

平成23年度 糖尿病教室予定

お問合せ、お申込みは
医療社会事業課(TEL 0773-75-1920)または栄養課まで

月 日	講義内容(時間)
8月17日(水)	12:30~13:40 食事体験 (食事実費400円) フットケア: 救肢・足を救おう! 看護師 13:40~14:00 食後の運動 ～食後の血糖値を下げよう～
9月21日(水)	15:00~15:30 糖尿病、あなたはどんな薬を飲んでいる? 薬剤師 15:30~16:00 低血糖予防のための食事 管理栄養士
10月19日(水)	12:30~13:40 自分の血糖値を知って、食欲の秋を乗り切ろう ～血糖測定と食事体験～ (食事実費400円) 13:40~14:00 食後の運動 ～食後の血糖値を下げよう～

●コントロール だいじょうぶですか?

8月と10月の教室は、実際の食事体験を通じて食事療法を学んでいただくよう計画しています。

糖尿病に限らず肥満やメタボリックシンドロームの危険が高く「食事の改善をしたい」と考えておられる方などお気軽にご参加ください。



短歌「作者50音順」

イキイキ 読者のコーナー

読者の皆様からの、短歌、俳句、川柳、詩、写真などを掲載させていただくページです。投稿ならびにお問合せは、薬剤部 坂根までお願いします。なお、作品には、住所、お名前、電話番号もお書き添えください。

田のあぜにいそぐでもないでん虫が背なをさわられつのをまとめる
今は亡き夫を想いてしみじみと青田のあぜを語らいて行く
市内池ノ内下 西 トキエ 様

落ち込みし時に励みを呉れし鶏今日も啼き居る力の限りに
生き居れば五十になる娘と思いつつ昇る朝日に幸せ祈る
市内南田辺 谷口 幹子 様

梅雨なかば強い日差しもカラッとし自転車こぐに気持ちさわやか
遠出して忘れなきよう気づかわれ老いの刻みをしみじみと感ず
市内上安 柴田 俊博 様

落ちる汗畑にいでて諸を握るもう限界なり午前十一時半
今朝も又むかう鏡に陽やけ止め八十路の我も女なりしか
市内桑飼上 佐藤 英子 様

黙し居る吾が横顔を見つめいる友に詫びたき気持はあれど
そしらるる事多き友のふと恋しさみだれ止まぬ土手道遠し
市内上安 池田 宣子 様

台風に水量を増す小川溢れ西瓜畑に競ひ入り来る
浸水の増しつ畑は夜に入り木の葉挽ぎゆく風吹きやまず
市内京田 阿部 はる 様

紅もみじ初夏の雨にも色あせぬ
初夏の畑心なごますおいも握る
市内池ノ内下 西 トキエ 様

一杯のビール欲りつつ畑仕事
良き場所を得て真上なる大花火
市内溝尻 中田 太郎 様

十薬も窓辺にさせば可憐なり
あじさいの紫に思う在りし夫
市内桑飼上 佐藤 英子 様

俳句「作者50音順」

舞鶴赤十字病院理念

赤十字理念「人道・博愛」のもと、
一人ひとりにやさしさと思いやりをもって、
いのちと健康、尊厳を守り、
地域医療に貢献します。

基本方針

- 1 地域医療の中心的役割を果たすために、
救急体制を整備し、安全で質の高い医療を提供します。
- 2 地域の中核病院として、他の医療・保健・福祉施設と協働し、
地域医療連携の推進に努めます。
- 3 赤十字の使命である災害救護に貢献します。
- 4 健全で合理的な病院経営に努めます。
- 5 快適な医療・療養環境の整備に努めます。
- 6 職員は常に研修・研鑽に努め、病院はこれを支援します。



SLOGAN

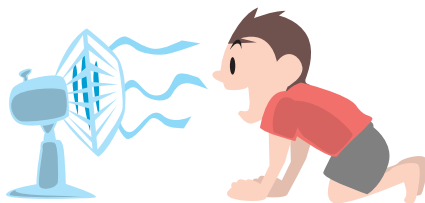
舞鶴赤十字病院 外来診療担当医表

平成23年7月1日更新

診 療 科			月	火	水	木	金	受付時間	診察開始時間	備 考
内 科	午前	1診(予約)	安威	西田	西田	担当医	西田	予約制のため受付不要	8時45分～	1診・2診は予約診察 3診は新患及び予約外診察 木曜日と金曜日の3診は 予約と予約外の混合診察
		2診(予約)	米山	(鈴木)	(酒田)	矢野 信	米山	//	//	
		3診	(酒田)	米山	安威	(白川)	(上田)	7時45分～11時30分	//	
	神経内科					徳田		予約制のため受付不要	11時～	予約受付は平日の15時～ 16時30分(電話予約可)
							ストーマ外来 (予約)	予約制のため受付不要	9時～	初回は外科外来を受診しストーマ外来を 予約して下さい(電話予約不可)
消化器内科	午前	2診(予約)		鈴木	酒田			予約制のため受付不要	8時45分～	2診は予約診察。3診は新患及び 予約外診察。受付は内科3診で 木曜日と金曜日の3診は 予約と予約外の混合診察
		3診	酒田			白川	上田	7時45分～11時30分	//	
小 児 科	午前		近藤	近藤	近藤	近藤	近藤	7時45分～11時30分	8時45分～	予防接種の受付は 水曜日以外の時間内、 電話予約の場合は 15時～16時(完全予約制)
	午後		近藤	近藤 (予防接種)		近藤 (予防接種)	近藤	月・金曜 12時～15時 火・木曜 予約制(備考参照)	14時～ 14時～	
外 科	午前	1診	矢野裕	山下/宮川	加藤	加藤	藤原 (乳腺内分泌外来)	7時45分～11時30分	8時45分～	乳腺内分泌外来は 完全予約制
		2診	荒木				矢野裕	//	//	
	午後	1診				加藤 (肛門外来)	藤原 (乳腺内分泌外来)	12時～15時	13時30分～	
整形外科	午前	1診(新患)	片山 (新患20人まで)	北中	北中/石田	仲川	石田	7時45分～11時30分	8時45分～	月曜1診は午後からの予約 診察の都合により、人数を 制限しています。片山医師 以外の医師は、新患診察の 合間に予約診察も行います。 水曜日の一診は 第一・第三週は北中医師 第二・第四・第五週は 石田医師が担当
		2診(予約)	仲川 (新患)	仲川	片山/北中	片山	仲川	7時45分～11時30分 予約は受付不要	//	
		3診(予約)	石田		(北中)	北中		予約制のため受付不要	//	
	午後	1診(予約)	片山				石田	予約制のため受付不要	13時30分～	
		2診(予約)	北中		片山			//	//	
皮 膚 科	午前		辻井	辻井	辻井	辻井	辻井	7時45分～11時30分	8時45分～	
	午後		辻井	隔週褥瘡回診	手術	手術	辻井 (予約)	12時～16時 予約は受付不要	14時30分～	
泌尿器科	午前		大橋		北森	寺崎		7時45分～11時30分	8時45分～	
眼 科	午前	1診(予約)	八木	竹田	八木	八木	担当医	7時45分～11時30分	8時45分～	1診・2診とも予約と予約外の 混合診察。午後の診察、検査、 治療などは原則として予約制 コンタクト外来は第2・第4 木曜のみ(新患受付可)
		2診(予約)	竹田		竹田			//	//	
	午後		検査レーザー		検査	コンタクト外来		12時～14時30分(コンタクト外来のみ)	13時30分～	
耳鼻咽喉科	午後		大村		兵庫		池淵	12時～15時30分	水曜13時～ 月・金14時～	

※予約変更のお電話は15時～16時30分をお願いします

編集後記



震災から4か月、復興の足音が聞こえ始めて来ました。被災地の方々、その方達を支える皆様方、本当に御苦労様です。これから本格的な夏を前に体調をくずしやすいとは思いますが、無理をしないで頑張して下さい。

私も4月から紅鶴のメンバーとなりました。不甲斐無い私ですが、頼もしい先輩方と一緒に頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。梅雨が明け、暑い毎日ですが気持ちだけでも爽やかに過ごして下さい。

T.H

読者の皆様へ

紅鶴編集チームでは、皆様のご意見、ご感想をお待ちしております。官製はがきか、病院備え付けのご意見箱に「紅鶴について」とお書き添えの上、お寄せください。どんな些細なことでも結構です。よろしくお願いいたします。



紅鶴
第60号

題字 名誉院長 横田 敬
発行所 舞鶴赤十字病院
舞鶴市宇倉谷427 TEL.0773-75-4175
発行日 平成23年(2011年)7月25日
発行責任者 院長 西田 和夫

チーム員 植和田光正、臼井千鶴子、坂根 章彦、柴田 直樹、
長谷川智子、藤本 芳枝、藤原 朗、山下さとみ、
吉川久美子 (50音順)

ホームページアドレス <http://maizuru.jrc.co.jp/index.htm>
印刷 (株)コザイ印刷 TEL.0773-75-1475